



の旗高く9.16総決起へ！

日刊 動労千葉

79.9.14

No. 224

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二三五八・九(公衆電話三三三二七二〇七)

二期工事粉碎・ジェット増送阻止 今こそ4000の底力を示せ！

いま三里塚は正念場を迎えている。二期工事をめぐり、森山発言(話し合い) 反対同盟解体)、ジェット増送計画など急ピッチの攻撃がかけられている。これは同時にわれわれ自身の課題でもあるといえる。自民党の一方独裁下、資本の意のままになる労働者になり下がるのか、労働者として闘う中から、労働組合を強化するのかが問われている。われわれは、動労「本部」 反対集団とのこの間の闘いにおける勝利にふまえ、「労農連帯」の新たな決意をもって9・16を突破口とする二期工事阻止、ジェット増送阻止へ向けて、全組合員の決起をつくり出してゆこう。

「労農連帯」の正義性を闘いをもって示す！

反対同盟は、森山の反対同盟つぶしともいえる「話し合い」路線なる策動を打ち砕き、新たな闘いに突入することを宣言している。

津山大会での「一線を画す」なる方針をキツパリ拒否し、われわれは、この間、三里塚・ジェット闘争貫徹の旗を高々とかけ闘い抜いてきた。三里塚現地集會のみならず、組合員・家族を含めた交流、サークル活動、援農などとおして労農連帯を一層強めている。今日、総評大会でも明らかのように、労働運動総体が右傾化する中において、三里塚・ジェット闘争こそ、八〇年代労働運動の戦闘的再生への突破口を切り拓く闘いとして、確信をもって闘い抜こうではないか。

度重なる「本部」 反対集団による組織破壊攻撃に勝利してきたものは、動労千葉の路線の正しさであり、「労農連帯」「貨物安定宣言廃棄」「暴力的・セクツ的引き回しを許さない」闘いがまさに労働組合にとって普遍的な課題であったが故に、第三五回全国大会における、全国的な決起をつくり出したのであり、広範な支援の輪をつくり出してきたことをわれわれは、はっきり促える必要がある。

開港後、ますます高まる反対運動！

「本部」 反対集団は、「反対同盟と一線を画す」方針を強行し、三里塚闘争を否定し、敵対することを決定した。そして彼らは、新たな住民・市民運動との結合と組織化を打ち出した。しかし、逆に今日では、全国の住民運動から見放されているのが現実である。それとはうらはらに、三里塚闘争についていえば、権力の強権的弾圧をもって強行開港した欠陥空港が、今日では、騒音、公害など多くの矛盾、周辺住民の反対運動の盛り上がりの中でかろうじて機能しているという状況である。

反対闘争は、開港後ますます高揚し、集會のたびに地元住民をはじめ全国から多くの労働者、住民運動の結集をみてきており、より広範な闘いとなってきた。その一点をみても、三里塚闘争の正義性は明らかであり、三里塚・ジェット闘争に決起したわれわれの闘いは正しかったことを証明している。

9・16三里塚現地集會へ圧倒的な結集を！

三里塚の人々は、荒地をどろと汗にまみれて開こうし、緑の三里塚大地を築いてきた。そんな矢先、一遍の話し合いすら行わず、反対する農民の土地を力で奪い、権力のもと開港された空港とは一体何なのか。われわれは、一四年間闘い抜き、いままた新たな決意で二期工事粉碎に立ち上った、反対同盟の闘いにこたえていこう。

全組合員のみなさん！

9・16を反対同盟は、二期工事阻止の出发点とすることを明らかにしているが、われわれは、ジェット闘争貫徹、増送阻止をとおして三里塚空港反対の闘いを貫徹してゆく、そのことが、二期工事阻止の闘いにこたえる唯一の闘いであることを鮮明に打ち出し、9・16三里塚現地集會へ結集しよう。

9.16 三里塚現地集會へ！

動労千葉 独自集會

10:30 成田運転区

正午 中公園